# 郷土摂津 いにしえ通信

第53号　平成14年9月1日
発行　摂津市教育委員会　生涯学習課生涯学習係
〒566-8555　摂津市三島一丁目1－1
℡(06)6383-1111　℡(0726)38-0007
ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

母なる川 淀川

## 第6回 淀船（三十石船）5

## シリーズ！ 淀川を往来した船

### 淀川三十石船歌の源流

船頭衆は小豆島を初め西瀬戸内海の島から千人を越える出稼者だけで結束していました。淀川流域の人達は欠員補充程度しか職につけませんでした。従って歌も瀬戸内海一円で広く艪漕ぎ歌として伝わっていきました。

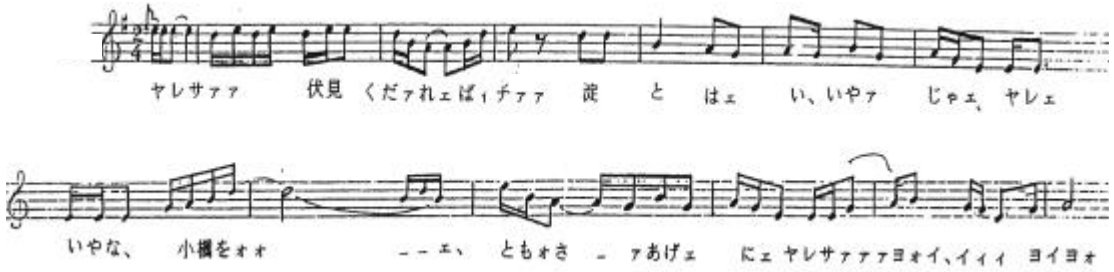
### 歌い方

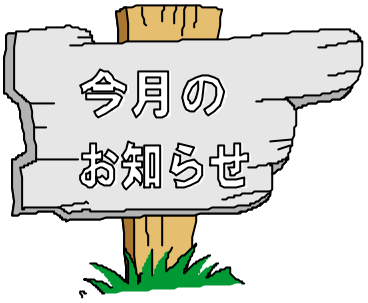
野太い曲で夜船で眠る客に「ここは橋本、大塚」と告げながら痴漢に用心を呼びかけ沿岸の案内をやった事から生まれた曲調。「ヤレサー」の出だしは眠るお客に声をかけるもの。最後の「ヤレサァーヨォイ、イーヨイヨー」は安全航行を守って自信を伝える艪漕ぎぶりの労力のリズムで独特の味があります。この歌は三味線、太鼓で歌うものではなく、握った竿の調子で歌われていました。歌には独特の節回し、つまり「ゆり」がつきます。

元歌としてのおおらかさ、野太さを現代民謡として表現するには最高の声量と精神の集中が必要でしたが歌う方も楽しいものでした。普段より歌いこみが大切で口先だけでなく腹に力をこめた発声練習が必要でした。これらの努力があってはじめて聴く者にうったえることができたのです。

『都名所図絵』巻５安永９年模写

♪淀川三十石船歌♭






講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

## 投稿コーナー

# 大阪にまだ「渡し船」が残っているのご存知ですか？

7月の終わり37度を越す猛暑の中、まだ大阪市内に残っている「渡し船」に乗る企画に参加して来ました。

昭和10年ごろには、渡船場が31箇所もあり機械船が32隻、手漕ぎ船が37隻、利用者も年間約5，752万人あったそうですが、平成11年度では約188万人となっています。

橋が架かり自動車の普及で道路整備も進み「渡し船」は徐々に廃止されました。まだ記憶に残っておられる方や実際に渡し船に乗られた方もおられると思います。

しかし、現在でも大阪市内には8箇所の渡船場で、15 隻の渡し船が地元の貴重な足として運航されていることは、私にとっては大きな驚きと感銘を受けました。

安治川筋では「天保山渡船場」、尻無川筋では「甚兵衛渡船場」、「千歳渡船場」、木津川筋では「落合上渡船場」、「落合下渡船場」、「千本松渡船場」、「木津川渡船場」、「船町渡船場」等岸壁間の一番長いものでも「天保山」の400メートル、短いのになると「船町」の75メートルでいずれも川風に吹かれ気持ちいいなあと思う間もなく、あっという間の下船です。

回りの景観にはそれぞれに特徴があり、とくに「甚兵衛渡船場」は昔ハゼの木が数千本も植えられ、紅葉の名所として地元の人々に愛され、シジミも名物だったそうです。

今は、高いコンクリートの防潮堤を目の前にしては、よほど想像をたくましくしないと当時の風景が見えてきませんが、対岸に高校もあり通学や通勤に利用され、一日の利用者数は約2，100人と一番多い「渡し船」です。

近代的なアーチや螺旋状の橋が架かっても、それは自動車の為のものであって（自転車も可なのですが）地元の人達にはこの「渡し船」が今なお交通手段として利用されていることを目のあたりにして、便利だということもあるでしょうが、ずっと残していきたいと思っておられる愛着心と熱意のようなものを汲み取ることができました。

住民の足として活躍している「渡し船」に乗せてもらって、大阪の河口近くの下町、工場地帯を眺めているとなにか複雑な気持ちになり考えさせられる事の多かった一日でした。
時代の流れとともに年々消えていく「渡し船」、今度はゆっくりと回ってみたいと思います。

# 郷土史コーナー

## 三宅（みやけ）の歴史

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

## 応仁の乱と三宅氏

### 幕府の乱れと応仁の乱

室町幕府は基本的には、守護が分国内の国人・農民を軍事的に統治する守護領国制を基盤とし、さらにこの体制を土台とするいくつかの有力守護大名が協調して将軍権力を支えるという連合政権的性格を持っていました。しかし一方、将軍権力も守護のみに頼ることなく、奉行人・奉公衆などの官僚組織・常備軍をととのえ、独自の権力基盤をもちつつ有力大名間の勢力均衡のうえに幕政を展開していきました。守護が幕府に抵抗したり叛乱を起こせば奉公衆を編成して鎮圧することができたし、守護の庶流一族を奉公衆や直勤御家人に任命して守護の跋扈（ばっこ）をけんせいすることも出来ました。将軍親裁権を最高度に発揮した足利義満の代を過ぎる頃から、幕府政治は、管領・侍所などの重職を出す有力守護（俗に三管四職）で構成される重臣会議を中心に運営されていましたが、重臣中でも「宿老」と呼ばれている政治力のある年配の１～２名の守護に権限が集中していく傾向にありました。

このような宿老・重臣を中心とする幕政の安定が崩れるきっかけとなったのは、将軍義教の強引な守護弾圧策でした。義教は斯波・畠山・今川・京極ら有力守護家の家督相続に関与して、巧みに一族の内紛を誘発させ、これらの家を弱体化するのに成功しました。伊勢守護の土岐頼康、若狭守護の一色義貫の両名は暗殺という手段で族滅の憂き目にあい、これが播磨守護赤松満祐による嘉吉の変の主因となりました。

このように義教の守護強圧策は、有力守護家を淘汰する役割を果たしましたが、これによって勢力均衡は大きくくずれ、重臣会議の機能はまひするに至りました。嘉吉の変の結果、山陽三か国の雄赤松氏も滅亡、変を契機に復活した畠山氏も、家督継承をめぐって家臣が真二つに分裂しました。畠山氏の弱体化を狙う管領細川氏が介入し、畠山家を無力化するのに成功しました。つづく（週刊朝日百貨日本の歴史より）　　担当　（茗荷）

応仁の乱関係諸氏略系図

# 第18回 埋もれた摂津市の歴史

発掘調査で明らかになっていく摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

## 平成9年度　東正雀13－1試掘調査　その1

**調査地と周辺の遺跡**　平成10年3月に東正雀13－1にて、共同住宅建設に先立ち試掘調査を実施しました。当該地周辺は比較的遺跡の密度が高い地域といえます。

②明和池遺跡
⑦正雀1丁目遺跡
⑨東正雀遺跡
⑫東正雀第1地点
⑭東正雀第2地点
⑮庄屋1丁目第1地点
⑰千里丘東4丁目第1地点
⑲庄屋2丁目第1地点

**基本的な堆積について**　このときの試掘調査では、7層の堆積が確認されました。第1・2層には最近の整地層と旧の耕作土が見られました。その下に第3層として近世の磁器を含む粘質土の堆積、第4層として中世の瓦器を含む砂層の堆積、第5層に遺物を含まない粘質土の堆積、第6層には古墳時代の土器がまとまって出土した粘質土の堆積、最下層には砂層の堆積と比較的複雑な堆積状況が確認されました。これらの堆積の状況や土器の出土状況は、この場所の立地を考えるうえで、多くの示唆を与えてくれるものでした。これより詳細を説明していきますが、近接する明和池遺跡で生活していた人々が「水辺の祭祀（さいし）」を行っていた可能性があります。

担当　（伊部）

| | | |
|---|---|---|
| 2m | 整地層 | 近現代 |
| | 旧耕作土 | |
| | 黄褐色粘質土 | 磁器・近世 |
| | 灰白色砂 | 瓦器・中世 |
| | 暗茶褐色砂質土 | |
| | 暗茶褐色粘質土 | 土師器・古墳 |
| | 明灰色砂 | ？ |

柱状概念図

□ 部分は河川氾濫堆積